

「証拠を集めて、真実突き止める。研究者って探偵みたいで楽しんです」

高知大学海洋コア総合研究センター（南国市）の特任助教、奥村知世さん（36）が、地球の謎に高知で挑み始めて4年になる。

宮崎県出身。受験勉強の気晴らしにと、偶然手にした鉱物学の本が後の人生を決めた。

「何億年もかけてできた鉱物にロマンを感じた」

広島大で海底などの石灰岩の成り立ちを研究し、九州大学の研究院で博士号を取得。任期付き研究員として、神奈川県横須賀市の研究機関などに勤務。東大で働きつつ、次の職場探しに追われていた頃、高知大の募集を知

# 高知で地球の謎を解く

った。婚約者もいたが「やらない後悔より、やった後悔」。単身、高知にやって来た。着任後すぐ、県特産物の寶石サンゴの研究を任された。生態や漁場形成について推察するため、足摺沖で「枯れ木（死んだ状態）となった個体の年代特定を、放射性炭素年代測定という手法で調査。すると紀元前5600

年ごろの枯れ木も見つかり、「数百年前のものはあるだろうと思っていただけ、びっくり。予想外でした」。新たに、龍河洞（香美市）の調査も始めた。東大の研究室の呼び掛けで、各地の大学が地元の鍾乳石を分析。大昔の気候を明らかにする試みだ。「世界中で自分しか調べてないことがあるって、わ

くわくしませんか」と目を輝かせる。婚約者とは高知に来る前に結婚。出産も経験した。今は夫と離れて暮らし、2歳の娘を育てながら研究に励む。「研究が実を結べば、地元の観光資源の価値を高めることにつながる。高知から地球の神秘を明らかにしたい」（報道部・福井里美）



「好奇心に取りつかれてます」と笑う奥村知世さん（南国市物部）